

学
報

スポーツ文化の風を発信する

NITTAIDAI

25
2010.Summer



スポーツの 可能性

特集 ■ スポーツの可能性 — 1

寄付金募集について — 5

新採用教員の研究内容 — 7

第13回 IOCスポーツ・フォー・オール国際会議報告 — 12

クラブ情報 ● 10年度上半期クラブの主な大会成績 — 13

NEWS ● 10年度上半期ニュース — 14

INFORMATION ● dot.NITTAIDAI — 15

Vision.1



『スポーツを伝える』

～教育の現場から

藁谷 沙織

(東京都練馬区立光が丘第三中学校)

Vision.2



『伝統を守る』

～土俵から知る

明月院 秀政

(体育学部武道学科 4年/相撲部)

Vision.3



『勇気を与える』

～障害とスポーツ

袖山 哲朗

(体育学部体育学科 4年/ゴルフ部)

Vision.4



『ビジネスとして』

～スポーツビジネスの現場から

岡崎 直人

(株式会社 オッシュマンズ・ジャパン)

Vision.5



『子どもに触れる』

～幼児教育の現場から

江藤 圭子

(学校法人木浦学園 小鳩幼稚園)

スポーツだからこそできることがある。

オリンピック、ワールドカップ。
世界舞台でのアスリートたちの活躍は、私たちに勇気と感動を与えてくれる。
体育・スポーツの日体大として、わが国・世界のスポーツ界をリードし、
トップアスリートを輩出していくという使命は、未来永劫変るものではない。
その一方で、時代が目まぐるしく変化し、
スポーツに求められる使命・価値観もますます多様化してきた。
豊かな未来社会を築こうと人々が手を携える中で、
これからスポーツはどのような役割を果たしていくことができるだろうか？
教育、福祉、伝統スポーツ、ビジネス等、さまざまなフィールドにおいて活躍する
日体大卒業生・在学生の声からその答えを探ってみたい。

時代の要請に応え、スポーツのさまざまな可能性を探っていくことは、
とりもなおさず、日体大生の将来の活躍のフィールドを広げていくことにほかならない。

特集

スポーツの 可能性

「楽しさ」がすべての原点

「子どもたちが変わっていく」

教員採用面接で、特別支援学級の担任をやってみるかと言われた時、ぜひ喜んでと答えた。

体操部のボランティア活動で、発達の緩やかな子どもたちを指導する機会があり、その素直さ、楽しそうに体操に取り組む姿を目の当たりにしていたからだ。

体育教員になって最初の運動会。

「全員リレー」は、特別支援学級も普通学級も分け隔てなく、全員一緒に競争する。

普段の体育では、短距離をマラソン並みのペースで走っている生徒もいる。

でもその日は、場内いっばいの声援を受けて、みんなの目の輝きが違った。

あれよあれよという間にトップに躍り出て、応援席の生徒たちもヒートアップ。

大喜びする生徒たちを抑えるのに、声を嚙らした。

この子たちには、無限の可能性がある。

ただちょっとだけ、自分の気持ちを表現することが不得手なだけだ。

スポーツの楽しさを知り、少しずつ自信をつけて、いろいろなことに挑戦して欲しい。

私が目指す「楽しい体育」がだんだん形になっていくような気がした。

「やっぱり体育の先生しかない!」

小学校の卒業文集に「体育の先生になりたい」と書いた。

とは言え、小学校6年生まで連続逆上がりができなかったほど運動は苦手。

夜の公園で一人練習してできるようになり、楽しくなって体操に夢中になることに。

それからは、体育教員をめざして日体大へ一直線だった。

養護教諭の資格も取りたいと思ったのは、心のケアもできる体育教員になりたかったから。

保健体育に加え、勉強が大変になるのはわかっていた。

部活と勉強の両立が忙しく、夢を諦めようかと思ったこともある。

だが、もともと負けず嫌いな性格。大学3年生をターニングポイントにバイク通学を封印。

通学時間、空き時間、昼休み、可能な限りの時間をすべて勉強に充ててラストスパート。

中途半端では生徒に楽しさを伝えることができないと思い、部活も4年間やり遂げた。

そして教育実習を終える日、ある生徒からもらった手紙…。

「私は体育が大嫌いでしたが、先生がいつもニコニコ、キラキラしているから、ちょっとだけ好きになりました。これってすごいことなんです!」

やっぱり体育の先生しかない!スポーツの楽しさを伝えていきたい。

夢を確信した。

みんなに支えられて、今の私がある。



大学時代、教員採用試験に向けて使用した手づくり教材。問題集の解答に頼るのではなく、自分で調べて答えを引き出すことが勉強の秘訣。

日体大出身で「東京都中学校体育連盟 理事長」「関東中学校体育連盟 常任理事」を務める渡辺政義校長先生と(写真左)。日体大出身の同期や先輩教員にも囲まれ心強い。



Vision.1
スポーツの可能性

スポーツ を伝える

●教育の現場から

東京都練馬区立光が丘第三中学校 教諭

藁谷 沙織 (わらがい さおり)

平成22年体育学部健康学科卒

(プロフィール)

特別支援学級3年生の担任、陸上競技部の顧問、総合学習における体づくり運動などを担当し、ガッツいっばいで頑張る。大学時代は体操部に所属。

日体大生へのメッセージ

なりたい仕事に就きたい、好きなことを続けていきたいという気持ちを大切に、日々楽しく、笑顔で過ごしてください。そうすれば必ず道は拓けます。

教員を目指す学生へのメッセージ

「どんな教員になりたいのか」「今、優先して何をやるべきか」を明確に。そして、論文でも面接でも、一緒に働いたら楽しいという気持ちを抱かせるような、前向きな姿勢や明るさを伝えることが大切です。



伝統を 守る

●土俵から知る

相撲部 主将

明月院 秀政 (めいげつ いん ひでまさ)

体育学部武道学科 4年 (足立新田高校出身)

(プロフィール)

6月に行われた東日本学生相撲選手権大会で
は団体、個人ともに優勝。

次のインカレでも2冠を狙う。

日体大生へのメッセージ

好きこそものの上手なれ。辛くても、一生
懸命頑張っていれば必ず結果がついてき
ます。そして感謝の気持ちを忘れず。

勝負とは己に勝つこと

立会いの時、「絶対に勝つ」と自分に言い聞かせる。

激しい突きが持ち味。相手を睨みつけているうちに気迫が漲ってくる。

相撲はシンプルな競技だと思う。引き分けがなく勝負は数秒。

何より、自分を鍛え抜き、強くなった者が必ず勝つ。

中学生までは、まったく勝てなくて、いつ相撲を辞めようかと考えていた。

そんな自分を認めてくれた高校の恩師の言葉。「気持ちに負けるな」。

本気になった。絶対に強くなって、ライバル達を見返してやる!

高校時代、少ない部員達を相手に、1日40番も50番も稽古した。

ついに、当時の高校生横綱を倒すまでになった。

日体大で初めて寮生活を経験した時、食事の支度から先輩の雑用まで

何でもこんなことまでやるのかと思ったことがある。

自分のトレーニングをする時間は、就寝前のほんのわずか。

それでも、仲間と支え合って、必死に頑張った。

辛さ、苦しさは、土俵でぶつければいい。土俵では先輩後輩もない。

1年生で「青まわし」をもらい、レギュラーに定着。今、個人タイトルが2つ。

齊藤一雄部長は「最強にしてやる」と言って日体大に誘ってくれたが、

自分はまだ、そうは思っていない。

ただ、本当の強さとはどういうことか知っている。

自分の弱さを知り、己に勝つこと。土俵がそれを教えてくれた。

勇気を 与える

木々の葉の揺れ、雲の動き。そういったものから風を読む。

パットは特に難しい。平衡感覚がつかみづらいからだ。

生まれつき、聴覚に障害があった。

野球選手に憧れた時期もあったが、キャッチボールをするだけ。

チーム入りは諦めた。

そして、小学3年生の時、父親に連れられゴルフ練習場に行き、

初めてクラブを握る。

ボールを打つて楽しい。個人競技だから、他人に気兼ねなくできる。

ジュニアスクールに入り、コーチの動きを見て、それを真似して必死に練習した。

聴覚障害者でもプレーできるデフゴルフの存在を知ったことで、自分は変った。

日本一になりたい。世界一になりたい。障害を跳ね返す、挑戦者になったのだ。

大学2年生で世界デフゴルフ選手権3位、

3年生では『JGAアカデミック・ゴルフ・アワード』を受賞した。

過去には、池田勇太、宮里藍など有名プロも受賞した

学生ゴルファー最高の栄誉。

これまでの頑張りが認められたことが、何よりうれしい。

今、自分は日体大というスポーツを学ぶ最高の環境にいる。

鍛え抜かれた体を持つ、優れたアスリートたちと出会うことができた。

エッサッサも覚え、厳しい上下関係も叩き込まれた。

そこには、甘えや同情といった心のハンディキャップはない。

それが本当のスポーツマンシップだと思う。

障害を持つ人にも、そうでない人にも、勇気を与えるゴルファーになりたい。

●障害とスポーツ

ゴルフ部

袖山 哲朗 (そでやま てつろう)

体育学部体育学科 4年 (静岡学園高校出身)

(プロフィール)

日本デフゴルフ選手権5回優勝、2008年世界デフ

ゴルフ選手権3位、

この夏の世界選手権では1位を目指す。

日体大生へのメッセージ

老若男女、障害の有無を問わず楽しむことが
できるのがスポーツです。皆の模範となるよ
う、心と技を鍛えてください。

心のハンディキャップはいらない

Vision.4

スポーツの可能性

ビジネス として

豊かなライフスタイルを支える

面白いスポーツショップがある。そう誘われて入社を決めた。
スポーツを生活の一部として楽しむ文化が定着しているアメリカ。
そんなライフスタイルを日本でも普及しようと、
サーフィン、アウトドア、シューズ、フィットネス・トレーニングをメインに
本格派からビギナーまで、使いやすい、使って楽しいアイテムを揃えている。
もともと人と接したり、人に教えたりすることが好きで、
教員を目指そうかと考えたこともあった。
でも、ビジネスならもっと多くの人とかかわることができる。
単に商品売って終わらず、その後もイベントやスクール、
メルマガを通して、お客様との付き合いが続いていくのがうれしい。
バレーボールの経験があるから、お客様へのアドバイスも説得力が違う。
社会に出て、スポーツから学んだことを活かすチャンスは限りなくあると思う。
基本をおさえ、戦略を立て、結果を出すというスポーツのやり方は
どんな仕事でも鉄則。
そしてなにより、スポーツマンは人と人の絆の大切さを知っている。
ビジネスの中心にあるのは「人」。これ以上の強みはない。
豊かな人生を送るために、もっと多くの人にスポーツを楽しんで欲しい。
仕事を通して、お客様に満足を提供し、さらに人の輪を広げていきたい。
出会いと喜びに満ちたスポーツビジネスは、
エキサイティングなフィールドだ。

●スポーツビジネスの現場から

株式会社 オッシュマンズ・ジャパン
千葉店 店長

岡崎 直人 (おかざき なおと)

昭和63年体育学部体育学科卒

(プロフィール)

同社はアメリカンスポーツの発信源として展開。

日体大卒業生も多数活躍している。

日体大生へのメッセージ

バレーボール部で培った忍耐、フットワークは今でも財産。頭であれこれ考えるより、結果を恐れず、まずは行動すること！

「おはようございます！先生、今日はなにで遊ぶの？」

子どもたちの元気な声に、私が笑顔で応える。

園児が毎日楽しみに幼稚園に来てくれる。それが、何よりうれしい。

元気の良さ。ハキハキとした返事。フットワーク。

すべて気に入ったからあなたを採用した。

後になって園長先生からそう聞いた。

体育の学校で学んだから…。それは誰にも負けない。

私が勤務する幼稚園では「体育ローテーション」という活動がある。

鉄棒、マット運動、跳び箱からマラソン、体操まで、

さまざまな種目を通して、子どもたちに体を動かす楽しさを体験させる。

鉄棒や跳び箱で園児の体を支えている時、私に伝わってくる信頼の重み、

「格好いい！」と言いながら、私の演技を見つめる視線。

スポーツを通して、

コミュニケーションの扉が開かれ、確実に深まっていると思う。

私にとってのスポーツは、子どもとのコミュニケーションの掛け橋。

こうして距離がどんどん近づき、

私と二人三脚で、給食が完食できるようになった園児もいた。

その時のうれしそうな笑顔が忘れられない。

スポーツの楽しさを分かち合いながら、

笑顔があふれる先生であり続けたい。

Vision.5

スポーツの可能性

子どもに 触れる

●幼児教育の現場から

学校法人 木浦学園 小嶋幼稚園 教諭

江藤 圭子 (えとう けいこ)

平成21年女子短期大学部卒

平成22年専攻科保育専攻修了

(プロフィール)

今年4月に社会人デビューしたばかりのピカピカの
新人幼稚園教諭。

年中クラスの担任として奮闘中。

日体大生へのメッセージ

子どもが好き、人とかかわることが好きな人にと
ってやりがいがある仕事。特に専攻科に進
むことで、知識の幅が広がりました。

コミュニケーションの掛け橋

の寄付金募集について



日本体育大学・日本体育大学女子短期大学部の世田谷キャンパス再開発事業については、平成20年8に第1期工事が、本年5月には第2期工事が予定どおりに完工し、現在は第3期の建設工事に着手しております。

この事業に要する建設費は約245億円を見込んでおり、建設費の一部については皆様のご支援、ご協力をお願いすべく、平成24年4月末までの3か年計画での寄付金募集を実施しております。昨年6月に開始しました寄付金募集は本年が2年目となりますが、引続き皆様の温かなご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、平成22年5月31日現在では、901名の方々から総額73,075,000円の寄付を戴いております。ご寄付を戴いた方々のお名前は次のとおりであります。

皆様の温かいご支援、ご協力で心から厚く御礼申し上げます。

日本体育大学東京世田谷キャンパス再開発事業募金委員会

委員長 塔尾 武夫

1. 募金状況

(平成22年5月31日現在)

区 分	件 数	金 額 (円)
1、役員、評議員、顧問	27	8,420,000
2、大学・短大教職員	81	11,980,000
3、法人職員	17	1,500,000
4、同窓その他	731	34,375,000
5、取引先企業	45	16,800,000
総 合 計	901	73,075,000

2. 内 訳 (各名前は受付順であり、匿名希望の方は記載してありません。)

(1) 役員、評議員、顧問

① 100万円以上の寄付者 (合計 3名)

塔尾 武夫 100万円
古川 敏治 200万円
坂口 美代子 300万円
② 100万円未満の寄付者 (合計 20名)
藤井 篤 日高 富久
佐分 正典 藤田 征榮
郷田 彰 高山 士
木暮 喜四 安達 忠勝
北村 卓司
加藤 征
中村 雅人
土屋 正男
今村 裕
佐藤 誠治

(2) 大学・短大教職員

① 100万円以上の寄付者 (合計 1名)

知念 全子 225万円

② 100万円未満の寄付者 (合計 68名)

落合 卓四郎 監物 永三
花原 勉 山本 博一
菅原 勲 本間 啓二
関根 義雄 石井 隆士
鳥山 康夫 藤森 善弘
福永 義臣 大東 忠司
立野 宏幸 三宅 香
古川 曉也 山本 貴代志
中島 善彦 土岐 真弓
増岡 麻美 成川 友邦
大月 由美子 西本 幸嗣
鶴間 梨里佳 黒澤 和歌子
諏訪 美千子
成田 國英
町田 輝雄
坂井 元
大出 一水
藤本 英男
櫻井 忠義
荒木 達雄
阿部 博之
柳田 伸明
友美
勝田 真也
寒河江 弘子
村上 修
伊藤 清一郎
具志堅 幸司
森嶋 昭伸
伊藤 孝
高田 泰樹
野村 一路
谷釜 了正
スーザン・ミラー
田中 信行
大野 誠
スーザン・ミラー
大野 誠
田中 信行

(3) 法人職員

① 100万円未満の寄付者 (合計 14名)

山本 稔 高木 隆吉
瀬津 功 山口 節子
門田 誠 長谷川 誉子
小田部 匠
武井 克夫
中小路 道生
原口 幸一
小林 要一
山田 保科
山田 哲司

(4) 同窓その他

① 100万円以上の寄付者 (合計 2名)

三宅 照子 100万円
沖永 波都子 1000万円

② 100万円未満の寄付者 (合計 629名)

飯塚 眞佐子 井山 充弘
上成 和子 河本 正明
竹原 康男 乾 道生
野上 泉美 安井 清彦
藤尾 良亮 高橋 範夫
佐久間 貞良 瀬戸 幹男
久保田 雅人 渡辺 麻波
廻谷 和彦 中尾 泰弘
吉永 俊嗣 古川 文秀
安部 光子 田村 美重子
石山 信男 小野 紘二
手嶋 芳人 坂井 寧雄
計
三澤 能喜
石川 博右
田村 正克
新井 嘉壽美
小川 達二
村山 一郎
田鍋 千栄子
田中 隆夫
佐藤 暁子
西谷 和好
吉永 品太郎
栗脇 一十男
松井 初雄
小谷 麗子
野上 毅
村上 哲夫
山中 好彦
伊與田 好彦
和田 旬功
田中 飛
佐藤 富美子
嶋田 武彦
山本 欣一

東京世田谷キャンパス再開発事業

[illegible]

(5) 取引先企業（合計 45 社）

光貴基礎コンサルタント (株)
丸山工務店
空島公認会計士事務所
株 リ ス
東 リ (株)
(有)やまいち
富士ゼロックス (株)城西支店
(株)三菱地所設計
(株)フアイナードシステムズ
株式会社 イントーキ
東京瓦斯 (株)
神奈川都市交通 (株)
(株)伸和石油
(株)信陽
(株)栄美通信
株 一和堂
新日本システム (株)
福田リニューアル (株)
フジミビルサービス (株)
白川電機製作所
三井住友海上火災保険 (株)
(株)松田平田設計
(株)ニチベイ
三建設工業 (株)
三協立働アルミ (株)
(有)ポパイマリンサービス
(有)ダイビングチームうなりぎぎ
東京サラヤ (株)
株 きんでん
(有)照妙堂
スボーツ施設 (株)
丸産投研
新開工業 (株)
(株)ニキ計画工房
(株)ディケイエイチ
(株)共立メンテナンス
(株)日本設計
(株)レオック東京
日本管財 (株)
東急バス (株)
(株)システム情報センター
(株)トヨコー
野村ビルマネジメント (株)
(株)図書出版
(株)ピーイズム

《寄付に関するお問い合わせ先》

東京世田谷キャンパス再開発募金係 TEL 03 (3704) 5203



大学2年次春季リーグ戦(左から3番目)

運動方法(バレーボール)研究室

山本 健之 准教授

守りの要だからこそわかる
チームが団結する大切さ。
あと一步、もうワンセット、日体大生よ熱くなれ



バレーボールしかなかった

名選手、猫田勝敏選手と同じ広島市安佐南区の出身。小学校のコートがすべてバレーコートとして使われていたほどバレーボールが盛んな土地柄。小学校の頃から、当然のことのように始めました。

中学、高校と進み、ここでその後のバレー人生を決定づける恩師と出会います。日体大OBの川本先生。森田淳悟先生の一学年後輩で、合宿所では同室だったとのこと。妥協や諦めは許さない。技術はもちろんです、早くも高校生にして日体大イズムを叩き込まれたわけ。大学進学にあたり川本先生に相談したところ、「お前なら大丈夫だから日体大へ行

け」。すごい話ばかり聞いていて、何が大丈夫なのかよくわからないまま、春合宿に参加するため高校卒業を待たずして上京しました。

春合宿早々、故・中田茂先生が私の挨拶する姿を見て一喝。これは厳しいぞと実感しました。ただ、今思うとそのご指導は本当にありがたく、私も授業の中で先生の教えを実践しています。

レシーブを武器に、頭角を現す

全国から名だたるスパイカー、セッターが集まる日体大。大柄な選手ばかりです。私の武器はレシーブ。身長が弱点なら、一歩でも先に動けばいい。1セットでも多く

練習すればいい。そうすることで、先輩たちからも一目おかれるようになり、1年生でベンチ入りを果たすことができました。

合宿所では、バレーボールについて激論を戦わすことも。夜中でも、じゃあちよつとボール持ってきて来いということになって練習です。24時間、バレーボールのことで頭がいっぱいでしたが、いいトスを上げアタックが決まる瞬間の快感が何物にも代えがたく、ひたすらボールを追っていました。

日体大バレーボール部とは？

大学3年のインカレ優勝の時のこと。その前の秋のリーグ戦で優勝を逃し、部内は悔しい気持ちでいっぱいでした。あの時ほど、熱く練習をしたことはなかったです。ね。気を緩める者など一人もなく、モチベーションが二つになって突き進むことができました。

バレーボールは試合に出るメンバーだけの力では勝つことができません。リーダーシップをとる者、それをサポートする者、全部の力が一つになってはじめて勝てる。信頼・団結・闘志が日体大の合言葉。それを伝えていくことが私の使命です。

世界で戦えるリベロを

1994年、レシーバーとして初めて全日本代表に。リベロ制度ができる以前のことで。その後再び代表に選ばれ、ワールドリーグ、世界選手権、アジア大会の舞

台に立たせていただきました。

94年の時は、外国勢の高さやパワーに圧倒されたものの、テクニク面ではそれほど差は感じませんでした。その後、リベロ制度ができると、外国チームも育成に本腰を入れ始め、今では上手い選手がたくさんいます。日本でもリベロとしての選手育成が期待されることです。

新旧の技が融合した
バレーボール部に期待を

23年間監督を務められた森田先生からバトンを受け、男子監督に就任いたしました。スパイカーである森田先生のスタイルに、ディフェンス型の私のスタイルを融合させて、さらに強い日体大を作りたいと思っています。目標はもちろんインカレ優勝です。

JTサンダースを最後に現役を引退し5年が過ぎましたが、私のバレーボールに対する思いは、ずっと続いています。私にとつてのバレーボールは、生きるエネルギーそのものです。



大学2年次秋季リーグ戦(左)



PROFILE ●やまもと けんじ
1970年生まれ。広島県出身
●体育学科
●日本体育大学体育学部
体育学科卒業



リーグ戦で(右から2番目)。在学中の目標は2学年上だった山本健之先生

運動方法(バレーボール)研究室

根本 研 准教授

日体大の恩師の方々に導かれ指導者の道へ。
「二球専心」「球心一体」「団結和協」の精神で
技と心のラリーをつなぐ



根性バレーで栄冠をつかめ

一昨年も全国制覇し、今や名門となった東金町ビーバーズ(東京都葛飾区)。この小学生バレーボールクラブに、男子1期生として入部しました。
かつての担任の先生の勧めで軽い気持ちで参加しましたが、今思うと、仲間とボールをつなぎ点数をとっていくという競技特性が私の気持ちにフィットしていたのかもしれない。小学校6年生で全国大会出場。大会を観戦していた松平康隆先生に握手していただいたことが思い出です。当時は相当なスパルタ指導で、あいさつや礼儀から徹底的に教え込まれました。まさにスポ根でしたね。

ボール拾いでもいから日体大で

中学校では全国大会ベスト8に。この時は東京選抜の主将を務めさせていただきました。
高校は、今年度、春高バレーで見事優勝した、日体大と深い交流がある東洋高校へ。現総監督の北畠先生をはじめ、日体大に縁のある先生が大勢いらっしゃり、時には日体大チームに胸を借りて、練習試合に挑むことも。いつの日かネットの向こう側に行きたいなと憧れていました。東洋の先生から「自分の母校でやってみなにかと熱い言葉をかけられ、ボール拾いでもいから日体大で頑張ろうと思った」とを記憶しています。

当時日体大バレーボール部は200人近い大所帯。私が初めてもらったナンバーは70番。ボール拾いどころか、幸運にも6人制Aチームに入っていたきました。全日本メンバーや後に強豪高校の指導者となる方といった錚々たるメンバーの中で、毎日必死に練習に取り組みました。

日体大バレーボール部とは?

山本健之先生が大学3年生の時、私が1年生。インカレ優勝の年です。1年生として最もハードな時期だったわけですが、優勝の瞬間、すべてが報われたような気がしました。試合に出なくても、チーム全員が一人残らず同じ気持ちになれた。それが日体大バレーボール部なのだと思います。

大学院への進学。指導者へ。

卒業後、助手として母校に残ることに。男子のコーチに。さらに大学院に進学し、本格的に指導者の道を歩むにあたっては、さまざまな先生方からご指導・助言をいただきました。

指導者として体系的な理論の必要性を説いてくださった故・進藤満志夫先生。先生の戦術についての研究をお手伝いすることで、その面白さに目覚めていきました。さらに私の進路を気遣ってくださった宗内徳行先生、現場と研究の橋渡しの重要性を教示してくださった浅見俊雄先生(名誉教授・元JISSセンター長)



PROFILE ●ねもと けん
1972年生まれ。東京都出身
●体育学科
●日本体育大学大学院体育科学研究科博士後期課程修了
●修士(体育科学)

熱い気持ちをもって、トライして欲しい

等々、多くの先生方の存在があつてこそ、今の私があるのだと思います。



日体大のユニフォームは憧れだった。(大学1年)

バレーボールは、ボールをつなぎあうことで成り立つ競技です。それは言い換えれば、お互いの気持ちを届けあうこと。4月から監督に就任した女子バレーボール部で、「二球専心」「球心一体」「団結和協」をスローガンに掲げているのもこのためです。心とボールは一つ。強い気持ちも、弱い気持ちもボールに表れてきます。心技ともに鍛え、OGの方々の期待に応えるチームにしていきたいと思っています。

我が部のスピリットは、一般の学生にとっても同じ。競技にしろ、勉強にしろ、就職活動にしろ、熱い気持ちをもって「ボール(目標)」にトライして欲しい。それこそが私がイメージする日体大生です。「ポイントゲッターより、チャンスマーカールたれ」。結果以上に、夢に向かってトライしていく過程が大切なのです。

陸上競技から研究者の途へ一念発起。 人の体や筋肉の不思議は追求するほど面白い

健康教育研究室

小林 正利 准教授



ていく過程や効果についての研究で、運動と生活習慣病の予防との関連や効果的なトレーニング方法を考えていく上で必要な知見を提供するものです。

講義では、学部では「学校安全」、「機能解剖」、専攻科の「健康教育学」等を担当させていただいています。基礎的な学問だけにいかにわかりやすく学生に伝えるかを考え、普段の生活の身近な事例と結びつけて話をするなど工夫を凝らしています。「学校安全」では時事問題を取り上げ、問題点を考えてもらったり、「機能解剖」では「子どもの手の甲の骨などは4〜5歳頃までは、まだ骨化していなくて軟骨である骨が多いのでレントゲンには写らないものもあるだよ。」等々の話をすると、学生の反応もいいようです。熱心に質問に来てくれる学生もいてうれしいですね。

疑問を持つことで動き始める

知らないこと、わからないことを追求するのが研究の面白さ。中野先生は、「わからないことがなぜ？、なぜ？、なぜ？と3つ続いたら、その先はまったくわかっていないことが多い」とおっしゃいました。確かに研究を勧めるうちにどんどんわからないことが増えていきましたが、こうしたらわかるようになるか考えることそのものがすごく楽しい。

皆さんも、勉強でも競技でも何でもいいからぜひ疑問を持つてください。疑問を持つことで、常に考えるようになり、積極的



PROFILE ● しばやし まさとし
1972年生まれ。兵庫県出身
● 健康学科
● 日本体育大学大学院修士課程
体育学研究科修了
● 博士(医学)

「ダブルタッチ」をもっと普及したい

着任後、ダブルタッチサークルの顧問をお引き受けしました。世界大会やジャパンオープンで優勝経験を持つ、この競技では世界でもトップクラスの団体です。私もその活躍ぶりは耳にしておりましたが、実際に目にするのは初めて。学生に演技を見せてもらいましたが、「すごい！」の一言に尽きました。

それ以来、自分で調べたり、学生と一緒に普及にあたるための課題を話し合いながら、活動の方向性を検討しています。卒業生たちが指導者として、全国で活躍してくれる日が楽しみです。また、今後の私の研究テーマとして、基礎研究を活かした健康教育や病気予防にも取り組んでいきたいと思っていますので、そういった領域とダブルタッチの活動をリンクできないか構想しています。



世界陸上の運営をサポート(大学1年・国立競技場)
左から3人目

卒業研究の「ダメ出し」で、研究に目覚める

学生時代は陸上競技部に所属。健志台合宿寮で生活し、エッサッサの洗礼も受けました。1991年に東京で開催された「世界陸上」の補助員をし、世界のトップアスリート達と出会えたことが思い出。とは言え、競技面では今ひとつで、4年間で何か自分なりの成果を出してきたかなと考えていました。そんな時、当時は非常勤講師として日体大で来られていた中野昭一先生(現・名誉教授)から卒業研究のダメ出しを受けることになったのです。その悔しさを克服するため大学院へ入り、そのまま中野先生に師事。入門者である

基礎研究をわかりやすく

私の研究分野は、健康教育学ですが、そのなかでも運動生理学や解剖・組織学を礎とした基礎研究。例えば、運動を行った際、骨格筋に糖や乳酸などが取り込まれ



大学2年生の時に参加したキャンプ実習
(後列中央)



教育実習（幼稚園）でお世話になった先生と実習先にて
（大学2年）

短大 幼児教育専門研究室

齊藤 崇 准教授

子どもに学び自分も楽しく過ごした保育士時代。
臨床心理・カウンセリングを学ぶことで
保育にできることが広がった



子どもや保護者の気持ちを 受け留めたい

群馬県内の公立保育園に10年間保育士として勤務した後、児童福祉行政を経験し、研究活動へ。自然に恵まれた環境で、子どもたちと楽しく過ごし、多くのことを学ばせていただきました。

在職中7年間、障がいを持つ子どもがいるクラスを担当。保育実践の中で、子どもに対する言葉かけにこだわり、研究するうちに、それがカウンセリング、臨床心理の分野の学びへと広がっていきました。子どもに対する援助はもとより、例えば自閉症など、障がいを持つ子どもの保護者に対してどのように援助するかという

うことが、私にとって大きな課題でした。保護者が子どもの障がいを受け入れることができない段階から、一緒にあって子どもと向き合うことで、やがて現実を受け入れ、保護者が変化していくというプロセスを何度も経験するうちに、気持ちを受け止め、共感することの大切さを痛感することになりました。それがカウンセリングを学び始めた理由です。

保育といっても、ただ子どもと遊ぶことだけが仕事ではありません。ソーシャルワークやカウンセリングを用いた保護者支援も含めて、非常に広がり大きい学びも含まれることを理解して欲しいと思います。

保育実践に臨床心理・ カウンセリングの知見を応用

ある園の先生から相談を受けて、カウンセリングの手法のひとつ、描画法で用いられるワークを保育現場で実践したことがあります。

スクイグルゲームというコミュニケーション遊びで、一人が自由に一筆書きで描いた線を、次の人にバトンタッチして、絵を仕上げていくというもの。この遊びを通じて、非常に内気だった子が担任に心を開き、やがてゲームがクラスや園中に広まり、全体が活性化したという予想以上の効果がありました。研究が実践で役立つうれしい事例のひとつです。

自己理解ができれば 他者理解も促進される

保育現場での必要性から始めたカウンセリングの学びでしたが、ますます興味が深まり、本格的に取り組むようになりました。

ベシック・エンカウンター・グループは参加者の自己理解・他者理解・コミュニケーション促進などを目的とした集中的グループ体験で、私が特に興味を持った研究テーマの一つです。グループのメンバーひとり一人を理解することはこども理解やクラス運営にも役立つとともに、多くのことを示唆してくれます。

保育士とは他者を理解しなければいけない職業であることは言うまでもありませんが、実は他者理解と自己理解は表裏



PROFILE ● さいとう たかし
1970年生まれ。群馬県出身
● 短大幼児教育保育科
● 東京福祉大学大学院 心理学
研究科博士課程前期修了
● 修士（臨床心理学）

一体で、自己理解ができない人は他者理解もできないのです。例えば、保護者がメイキップを変えてきたと思った時、それはその人にとってどんな意味があるのかを考えることが大切です。このことは、自分が同じような経験をした時にどんな意味があるかを日頃から考えていけば気づきます。日常生活の中で、自分について振り返る機会は多々あります。良い保育士となるためにも、ぜひ自己理解に努めて欲しいと思います。

現場の経験を伝えていきたい

例えば、集団遊びやルールを子どもに説明する時、頭で理解させようとしても、なかなかうまく伝わりません。「シッポ取り」というゲームなら、「みんなはシッポがあるネズミさんね」と言えば、子どもたちもイメージしやすくなります。初めて保育実習に参加する学生は、イメージを使うというこうした言葉かけはなかなか思いつかないと思いますので、実践での経験をできる限り伝えていきたいと思っています。

スポーツに多く触れる環境にいる皆さんは、保育現場でも大いに期待されています。学生時代に経験したこと、感じたことを、考えたことを保育現場でぜひ活かしてください。





全日本女子剣道選手権大会2位に(大学4年)

運動方法(剣道)研究室

新里 知佳野 助教

剣道は作品。心の器を上に向けて
素直な気持ちで稽古や勉強に励み、多くを吸収し
充実した大学4年間にしたい



沖縄から全国へ。
とにかく強くなりたかった

『幼少の頃から、汗と涙を流せ。苦しさ
に立ち向かえ、逃げるな』

小学校1年生から通っていた道場に、
こんな言葉が掲げられています。兄に憧
れて始めた剣道。まずはこの道場で一番強
くなりたい、次は地区(宮古島)で、県でと
目標が次第にレベルアップしていきまし
た。小学校5年の時に県大会準優勝、6
年で優勝。そして中学、高校と進み、当時
九州を制する者は全国を制すとまで言わ
れた強豪が揃う県外大会に挑んでいくこ
とになります。

私の剣道は、小・中学時代にお世話に

世界への挑戦。
日体大でさらに飛躍

道場関係者の方の勧めがあつて、日体
大に進学。周りは高校時代のライバルば

なつた道場の館長先生の存在抜きに語る
ことはできません。普段は温和でまるで
父親のように優しく接してくださる方だ
すが、文頭の言葉通り、いったん面をつけ
ると、厳しく私を指導してくださいまし
た。全部の試合に付き添い、ビデオで撮影
して検証。勝つためにはどうすればいい
かを熱心にアドバイスしていただいたこ
とで、中学校3年生で全国3位となるな
ど、着々と自信をつけていきました。

かりです。やるもやらないも自分次第。ラ
イバル達に負けたくないと思ひ、一心
不乱に剣道に取り組みました。

日体大での恩師岡田守正先生(現・女
子総監督)には、私の剣道の可能性をさら
に引き出してくださいました。竹刀の上
げ方、足の出し方など、基本動作を再度
徹底していただくことで、面技も見違え
るようになりました。一挙手一投足、切れ
のよい動きを身につけられたことが大き
く、その後全日本や世界の舞台に立つこ
とができたのも、日体大での指導のおか
げだと思っています。

大学3年生の時、世界剣道選手権大会
(イギリス)に出場しベスト8に。当時は
日本代表に選ばれるだけで光栄だと思っ
ていましたが、国内外の最も意識が高い
選手達と剣を交えることで、刺激を受け、
自分の剣道観を一層高めていくことがで
きました。大学4年生では、国内大会の最
高峰である全日本女子剣道選手権大会
で準優勝に。4年間の集大成として、持て
る力をすべて出し切ることができ、最も
思い出深い一戦になりました。

剣道部女子監督として
日本一を目指す

昨年、再度世界選手権(ブラジル)に出
場させていただき、個人3位という結果
を残すことができました。今後も自分の
競技力を磨いていくことはもちろんです
が、この4月から、剣道部女子監督を務め
ることに。大役に身が引き締まる思

いがしています。選手達の表情、稽古をし
ている姿は日一日と違う。十人いれば十通
りの考え方を持つ選手たちをどうまとめ
ていくか。むずかしい仕事ですが、同時に
大きなやりがいを感じています。大学日
本一を目指して、精一杯努力します。

大学4年間は、最も剣道に集中できる
時期であり、一番伸びる時期です。学生に
は、悔いを残さず完全燃焼して欲しい。心
の器、コップを上に向けて、素直な気持ち
ですべてを吸収ください。

技、知識ともに剣道を極めたい

大学院では女子剣道史を研究。薙刀か
ら竹刀競技へ。そして世界大会が開かれ
るまでに発展した経緯をたどることで、
競技者・指導者としての思いを新たにす
ることができました。

私にとつての剣道は、土台を築き、肉付
けをして、色を染めていく「作品」。芸術
の域まで到達することができれば理想で
す。人の心に響くような技が打てるよう
さらに研究を重ねて、精進していきたい
と思います。



初めての個人戦。母も沖縄から応援に駆けつけてくれた。(大学1年)



PROFILE ● しんざと ちかの
1982年生まれ。沖縄県出身
● 武道学科
● 日本体育大学大学院体育科学
研究科博士前期課程修了
● 修士(体育科学)



IOC提供



IOC提供

第13回 IOCスポーツ・フォー・オール国際会議 報告

13th IOC World Sport for All Congress 14-17th June 2010



運動方法(体操)研究室
荒木 達雄 教授

IOC(国際オリンピック連盟)が主催する、スポーツ・フォー・オール国際会議に、本学から荒木 達雄教授が日本人としては初のゲスト・スピーカー(特別講演者)として講演を行った。この国際会議は平成22年6月14日～17日にかけてフィンランドのユベスキュレ市にて開催され、92カ国より586人が参加している。

昨年10月にIOCよりゲスト・スピーカーの依頼を受け、11月にIOC本部のあるスイス・ローザンヌで大会委員長であるC.Dubi氏と会見しました。講演依頼のきっかけは、私が2006年より日本農業新聞で連載した「かるやか体操(農家における体操)」の記事がFIG(国際体操連盟)に掲載され、Dubi氏はそのHPを観て興味を示し、私に連絡してきくれたのです。

Dubi氏との話し合いで、講演テーマを「誰でも易しく楽しみながら運動する勧め」としました。30分の講演ですが、学会における従来のスタイルである発表講演のみではなく、何かユニークなアイデアを盛り込んでもらいとのリクエストが付け加えられました。そこで、体操についての講演だけではなくスポーツ・フォー・オールの原点である「みんなが楽しんで身体を動かす」ことを盛り込むことにしました。

その基本である運動実施サンプルを、本学の広報課の協力を得て、オフィスでの簡単な体操を実演してもらいVTR撮影を行いました。その映像を講演の終盤に提示し、参加者にも同じ条件で運動してもらいましたが、これが大反響を得た要因となりました。まさに、Dubi氏の要求した「従来の国際学会の枠を脱却したい」との意向と一致した結果となりました。



2009年11月、Mr. Dubi氏とIOC本部にて



IOCのオフィシャルHP



大会プログラム



平成22年度[上半期クラブの主な大会成績]

スポーツ課調べ 4月～6月 情報は新聞各紙(日体大スポーツ含む)・インターネットからの抜粋

クラブ名	性別	大会名	種目	順位	氏名
■駅伝	男子	第17回世界大学クロスカントリー選手権大会	10km (2部)	6位	野口拓也(4)
	男子	第89回関東学生陸上競技対校選手権大会	(2部) 10000m (2部) 3000mSC (2部) 5000m	2位 3位 3位	出口和也(4) 沼井俊輔(2) 出口和也(4)
■体操競技	男子	ワールドカップ(W杯) パリ大会	鉄棒	優勝	内村航平(4)
			つり輪	2位	内村航平(4)
			個人総合	優勝	内村航平(4)
		第64回全日本体操競技選手権(兼第42回世界体操競技選手権大会第2次選考会)	個人総合	3位	山室光史(4)
			団体総合	優勝	内村航平(4)
			個人総合	2位	山室光史(4)
		第44回東日本学生体操競技選手権大会	個人総合	3位	稲寺拓也(4)
			種目別 ゆか	優勝	内村航平(4)
			種目別 跳馬	2位	内村航平(4)
		第49回NHK杯兼第42回世界体操競技選手権大会日本代表選考会	種目別 跳馬	3位	稲寺拓也(4)
			種目別 あん馬	優勝	出口諒財(3)
			種目別 平行棒	2位	山室光史(4)
	女子	第44回東日本学生体操競技選手権大会	種目別 平行棒	優勝	内村航平(4)
			種目別 つり輪	優勝	内村航平(4)
			種目別 つり輪	2位	内村航平(4)
		第49回NHK杯兼第42回世界体操競技選手権大会日本代表選考会	種目別 鉄棒	2位	出口諒財(3)
			個人総合	優勝	内村航平(4)
			個人総合	2位	山室光史(4)
		ジャパンオープン2010	個人総合	優勝	田村侑加(3)
			個人総合	2位	竹内世梨奈(3)
			個人総合	3位	内村春日(2)
		第86回日本選手権水泳競技大会・競泳競技	種目別 跳馬	3位	竹内世梨奈(3)
			種目別 平均台	優勝	内村春日(2)
			種目別 平均台	3位	竹屋佳奈(4)
■バレーボール	男子	第29回東日本大学バレーボール選手権大会	種目別 段違い平行棒	優勝	竹内世梨奈(3)
	男子	平成22年度関東大学バドミントン春季リーグ戦	種目別 段違い平行棒	2位	田村侑加(3)
■バドミントン	男子	関東学生バドミントン選手権大会	種目別 ゆか	2位	池尻麻希(1)
	男子	2010年首都大学野球春季リーグ戦		3位	
■硬式野球	男子	2010年首都大学野球春季リーグ戦	Aブロックシングルス	優勝	佐藤黎(2)
	男子	関東学生ハンドボール連盟2010年春季リーグ戦		2位	
■ハンドボール	男子	関東学生ハンドボール連盟2010年春季リーグ戦		優勝	
	女子	関東学生ハンドボール連盟2010年春季リーグ戦		優勝	
■水泳(競泳)	男女	第86回日本選手権水泳競技大会・競泳競技	上位リーグ	2位	
	男女	第86回日本選手権水泳競技大会・競泳競技	50m自由形	優勝	松本弥生(3)
■相撲	男子	第27回全日本大学選抜相撲宇和大会	200m個人メドレー	2位	堀畑裕也(2)
			400m個人メドレー	優勝	堀畑裕也(2)
			100m自由形	2位	松本弥生(3)
		第50回全国大学選抜相撲宇佐大会	400m個人メドレー	優勝	堀畑裕也(2)
			200m個人メドレー	2位	堀畑裕也(2)
			50m自由形	優勝	松本弥生(3)
		第61回東日本学生相撲新人選手権大会	100m自由形	3位	松本弥生(3)
			200m個人メドレー	3位	中岡洋子(2)
		第48回全国選抜大学・実業団対抗相撲和歌山大会	団体戦	優勝	橋本誠也(3)
			個人戦	3位	松永昭久(4)
		東日本学生相撲選手権大会	団体戦	優勝	南雲学人(2)
			個人戦	2位	滝田真(1)
■陸上競技	男子	第89回関東学生陸上競技対校選手権大会	個人戦	優勝	吉田圭佑(1)・一ノ瀬康平(1)
			団体戦	優勝	明月院秀政(4)
		第50回全国大学選抜相撲宇佐大会	(2部) 100m	優勝	福島裕之(4)
			(2部) 400m	優勝	長島正憲(2)
			(2部) 400m	3位	大西啓介(3)
		第61回東日本学生相撲新人選手権大会	(2部) 走高跳	3位	古川佑生(4)
			(2部) ハンマー投	2位	山田晃義(3)
			(2部) 十種競技	2位	山田海太(2)
		第48回全国選抜大学・実業団対抗相撲和歌山大会	(2部) 4×100m	2位	渡辺敬志(4)・藤原達矢(1)・松本一毅(3)・福島裕之(4)
			(2部) 棒高跳	2位	奈良光基(4)
			(2部) 棒高跳	3位	三浦優(2)
		東日本学生相撲選手権大会	(2部) 砲丸投	優勝	森井亮平(3)
■陸上競技	女子	第89回関東学生陸上競技対校選手権大会	(2部) 砲丸投	3位	矢島光明(1)
			(2部) 200m	優勝	福島裕之(4)
			(2部) 800m	優勝	月野雄一(3)
		第50回全国大学選抜相撲宇佐大会	(2部) 800m	3位	松本圭介(2)
			(2部) 400mH	2位	水野龍彦(2)
			(2部) 4×400m	優勝	川村将平(2)・大西啓介(3)・加賀谷秀明(2)・長島正憲(2)
		第61回東日本学生相撲新人選手権大会	(2部) 円盤投	優勝	森井亮平(3)
			(1部) 棒高跳	2位	青島綾子(2)
			(1部) 棒高跳	3位	住石智子(3)
		第48回全国選抜大学・実業団対抗相撲和歌山大会	(1部) 5000m	3位	須磨なつ美(4)
			(1部) 4×100m	3位	松本菜摘(4)・渡部しずか(2)・須磨加奈江(4)・渡邊美里(2)
			(1部) 走幅跳	3位	武田瑞南(3)
■バレーボール	女子	第29回東日本大学バレーボール選手権大会	(1部) 800m	3位	吉澤彩夏(3)
				3位	
		第42回東京都大学男子1部春季リーグ戦		2位	
				2位	
		第42回東京都大学女子1部春季リーグ戦		2位	
				2位	
		関東学生バドミントン選手権	Aブロックシングルス	2位	宮内唯(3)
			Aブロックダブルス	2位	宮内唯(3)・鈴木温子(2)
			シングルス	2位	佐藤(秀香)(2)
■ソフトテニス	男子	インドネシアオープン	団体戦	優勝	水松彩華(3)
			団体戦	優勝	柿崎あやの(2)・河上晴菜(4)
			シングルス決勝	優勝	
		全日本大学対抗ソフトテニス競技大会	一般	優勝	
			団体戦	3位	
			団体戦	優勝	
		第55回全日本女子選抜ソフトテニス大会	(入替戦 1・2部)	1部昇格	
			60kg級	優勝	山本浩史(3)
			1部エ	1位	
■卓球	男子	ワールドカップマドリッド	1部サーブル	3位	
			1部エ	3位	
			1部エ	3位	
		第63回関東学生フェンシングリーグ戦	69kg級	優勝	辻誠人(2)
			69kg級	2位	平本衛治(1)
			69kg級	2位	辻誠人(2)
		第38回東日本大学対抗ウエイトリフティング新人選手権大会	77kg級	優勝	山本俊樹(1)
				優勝	
			総合	優勝	
■フェンシング	男子	第63回関東学生フェンシングリーグ戦	団体(男子)	2位	
			団体(女子)	優勝	
			3段の部(男子)	2位	小倉一慶(4)・瓜本久貴(3)
		第38回東日本大学対抗ウエイトリフティング新人選手権大会	3段の部(男子)	3位	多養亮平(3)・松尾裕太(1)
			3段の部(女子)	優勝	遊作麻唯子(4)・内川麻衣子(4)
			3段の部(女子)	2位	田邊理菜子(4)・梅林朱梨(3)
		第38回東日本大学対抗ウエイトリフティング新人選手権大会	2段の部(男子)	3位	藤澤龍之介(2)・吉川元貴(1)
			3人掛の部(男子)	2位	川島涼輔(4)・深瀬敬二郎(3)・天野雅弘(1)
			3人掛の部(女子)	優勝	稲田実花(4)・落合由美(4)・中尾美保子(3)
■ウエイトリフティング	男子	第38回東日本大学対抗ウエイトリフティング新人選手権大会	リカーブ個人	優勝	坂野太一(3)
			個人	優勝	佐藤博乙(1)
			個人	2位	山本悠太(3)
		第38回東日本大学対抗ウエイトリフティング新人選手権大会	リカーブ個人	優勝	早川達(4)
			個人	優勝	新海彩(4)
			個人	2位	齊藤彩香(2)
■少林寺拳法	男女	第47回関東学生少林寺拳法大会	個人	3位	
			個人	3位	
			個人	3位	
		第47回関東学生少林寺拳法大会	個人	3位	
			個人	3位	
			個人	3位	
■アーチェリー	男子	関東学生アーチェリーリーグ戦	個人	優勝	
			個人	優勝	
			個人	優勝	
		第8回世界学生選手権最終選考会	個人	優勝	
			個人	優勝	
			個人	優勝	
■トランポリン	男子	第21回全日本学生アーチェリー東日本大会	個人	優勝	
			個人	優勝	
			個人	優勝	
		第49回全日本学生アーチェリー王座決定戦	個人	優勝	
			個人	優勝	
			個人	優勝	
■トライアスロン	女子	関東学生アーチェリーリーグ戦	個人	優勝	
			個人	優勝	
			個人	優勝	
		第8回世界学生選手権最終選考会	個人	優勝	
			個人	優勝	
			個人	優勝	
■自転車競技	男子	第21回全日本学生アーチェリー東日本大会	個人	優勝	
			個人	優勝	
			個人	優勝	
		第45回全日本学生アーチェリー王座決定戦	個人	優勝	
			個人	優勝	
			個人	優勝	
■トライアスロン	男女	2010国際大会選考会	個人	優勝	
			個人	優勝	
			個人	優勝	
		東日本学生選手権大会	個人	優勝	
			個人	優勝	
			個人	優勝	
■トライアスロン	男子	2010カヌースプリント海外派遣選手最終選考会	個人	優勝	
			個人	優勝	
			個人	優勝	
		ACCトラックアジアカップ2010 日本ラウンド	個人	優勝	
			個人	優勝	
			個人	優勝	
■トライアスロン	女子	第22回全日本学生個人ロードタイムトライアル自転車競技大会	個人	優勝	
			個人	優勝	
			個人	優勝	
		学生スプリングトライアスロン選手権	個人	優勝	
			個人	優勝	
			個人	優勝	
■トライアスロン	男女	第15回全日本大学トライアスロン選抜大会	個人	優勝	
			個人	優勝	
			個人	優勝	
		第15回全日本大学トライアスロン選抜大会	個人	優勝	
			個人	優勝	
			個人	優勝	



TOPICS

全国同窓高等学校長・特別支援学校長懇親会を開催しました！

平成22年5月26日(水)、東京・世田谷キャンパス内学生食堂(Nレストラン)にて全国同窓高等学校長・特別支援学校長懇親会が開催されました。現在、全国には高等学校長147名(公立127名、私立20名)特別支援学校長13名の先生が本学のOBとして活躍しており、当日は60名近くの校長先生にご出席いただきました。懇親会では本学の教員や級友の方々と懇親を深め、また新しくなった校舎に驚き、今後の日体大の活躍に大いに期待をしてお声を掛けていただきました。



TOPICS

本学学生が人命救助で感謝状

平成22年6月24日(木)、世田谷区にある玉川消防署にて体育学科2年山崎滉太君(バスケットボール部所属)に玉川消防署長より感謝状が授与されました。これは、6月12日に世田谷区用賀駅にて男性がホームから線路に転落し、生命の危機に瀕していたところをその場にいた男性の方と共同で、的確かつ迅速な行動により救助したこと功績を称え表彰されたものです。

山崎君は「今後もこのような場面に遭遇した時のためにも、大学での日々の生活を実践で生かされるように心がけていきたい」と話していました。



玉川消防署長と記念写真

TOPICS

「振り込め詐欺撲滅キャンペーン」でチアリーダー部がPR協力

平成22年6月9日(水)世田谷区用賀の世田谷ビジネススクエアタワーにて「振り込め詐欺撲滅キャンペーン」イベントが行われました。本学からは東京・世田谷キャンパスを所管する警視庁玉川警察署からの要請を受け、チアリーダー部が撲滅PRの演技を行いました。

チアリーダー部主将上野美那子さんは(体育学科4年)「地元の防犯活動のお手伝いができることは、大変光栄なことで、私達も嬉しい限りです」と話し、積極的に参加をしていました。



TOPICS

不祥事再発防止活動警察講話を実施しました

平成22年5月22日(土)横浜・健志台キャンパスにて開催された平成22年度春季学友会総会にて神奈川県警察本部薬物銃器対策課より講師をお招きして警察講話を実施しました。これは、本学で発生した一昨年からの一連の不祥事における再発防止活動の一環として開催されたものであり、本学学友会員2,000名に対し、映像資料を交えながら、薬物事件の捜査の専門官からみた「薬物乱用の恐ろしさ」についてご講義いただきました。

今後も、二度と同様の事件を引き起こさないためにも、全学一丸となり継続して再発防止活動を実施していく予定です。



TOPICS

22年度就職対策行事

全体	
講座名	内 容
個人模擬面接(通年)	企業・公務員向けの模擬面接
クラブ・サークル別キャリアデザイン講座(12月)	就職活動を両立させる為の支援講座
自己分析(10月)	志望動機、自己PRにつなげる
女子学生限定講座(11月)	服装やメイクなどのマナー、女性目線の会社選び
マナー講座(11月)	社会人としてのマナーの基礎について学ぶ
面接講座(12月)	集団面接を想定し、実践する
グループディスカッション(12月/1月)	概要を知り、実践する
パソコン研修(12月)	パソコン(Word、Excel)の研修
合同就職説明会(12月/1月)	1 回目 企業・官公庁の人事担当者を招き実施 2 回目 OBが就職している企業を中心に実施

教員

講座名	内 容
論文/面接個別指導	論文、面接、勉強方法などの指導
小学校資格認定試験対策(通年)	認定試験に向けた個別指導
模擬試験(9/7・12/4(予定)・3/12(予定))	模擬試験
実技試験対策(4月~7月)	実技試験の対策
2次試験対策講座(8/11~19)	集団討議、面接、模擬授業、論文の対策
筆記試験対策講座(8/30~9/3・2月中旬・3月中旬)	教職・一般、教職教養、専門教養
宿泊研修(9/21~23・1月上旬・3月下旬)	ライバルと切磋琢磨しながら勉強を進める
勉強方法ガイダンス(11/8(予定))	合格者より勉強方法のガイダンス

企業

講座名	内 容
後学期就活スタート講座(9/28・29)	就職サイトの基本から利用技術の習得
集中研修講座(9/21~22・1月)	企業就職対策の基礎 まだ何もしていない学生の為の企業就職対策
業界研究(10月~12月)	人事担当者との講話
エントリーシート書き方講座(11月/1月)	書類の書き方を学び、実際に記入
一般常識試験対策(1月)	一般常識試験の対策

公務員

講座名	内 容
公務員筆記試験対策講座(9/6~17・11/8~29・1/11~17)	公務員採用試験対策/基礎・応用・演習
職種別説明会(随時)	採用担当による職種ごとの説明・試験対策など
職種別職場体験・見学(随時)	消防、警察署、自衛隊などの職場体験・見学
公務員全国公開模擬試験(12/4・1/22・2/19・3/12)	公務員採用試験模擬テスト/一般教養

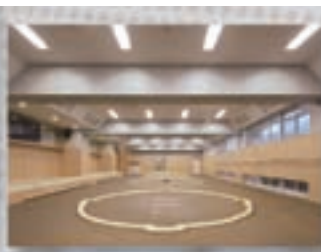
短大 ※短大体育科関係は、学部の講座に準じます。

講座名	内 容
面接・マナー講座(幼稚園・保育園向け)(9月22日・29日(予定))	社会人としてのマナー、模擬面接
就職活動体験談(11月中旬)	内定者による体験談
保育士対策講座(2月中旬)	筆記試験対策/公立保育園・幼稚園

東京世田谷キャンパス再開発工事 第2期工事竣工



柔道場



相撲場

日体大の新しいステージ 新教育研究棟・スポーツ棟 完成



スポーツ棟

5月31日、第2期工事が竣工。

日体大の新しいステージが、着々と整いつつあります。

今期の工事で教育研究棟が完成し

図書館、学生生活課、キャリア支援センター等、

学生サービスに関連する施設が充実しました。

また、スポーツ棟にはメインアリーナ (60%完成) や

トレーニングセンター、各種中小体育館も設置され、

各種大会・行事、また地域交流の場として

活用される予定です。



メインアリーナ



剣道場



図書館



記念講堂



新教育研究棟

【編集後記】 今号のテーマは「スポーツの可能性」である。日体大スピリットから、教育、福祉、文化などの観点から人を紹介掲載している。私は、現在広報課に所属しているが、その前は11年間就職関係の仕事させてもらい、学生の就職活動など一生懸命活動している場面を見てきた。このような経験もあつてか、今回学報に掲載されたOB・OGの方々の職場での生き生きとしている姿がとても勇ましく見える。彼らの日体大の学生時代はどうだったのだろうか？
いつも思うことだが、学生時代の一つのことをやり遂げた力は、卒業して違う世界（部活動から職場）に行っても、十分に生きる力を発揮できる。このコラムを読まれたあなた！ 今、一生懸命やっていることは、必ず将来「力」となる。「日々努力、自信を持って行動しよう」と励ましの言葉で編集後記としたい。